

令和4年4月19日

第31回 国と地方のシステムWG

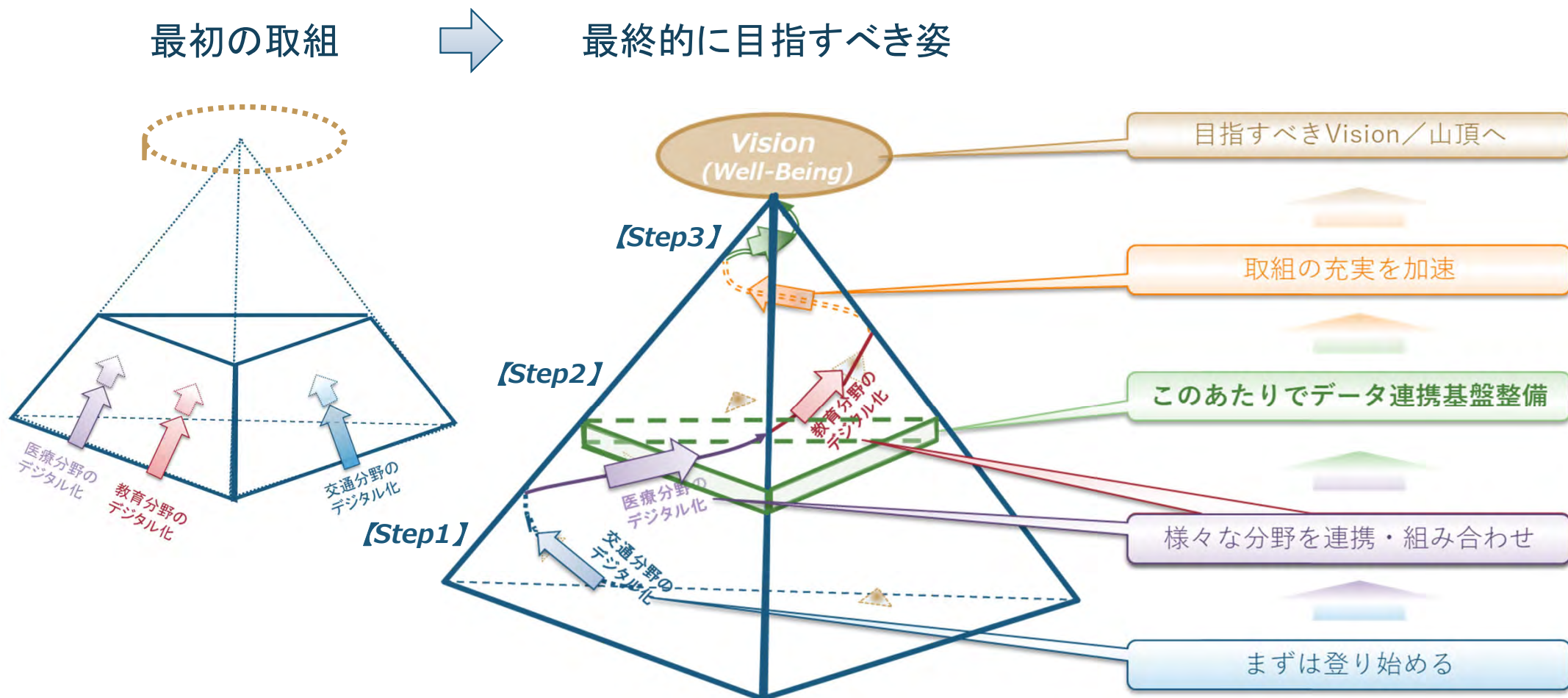
デジタル田園都市の構築について

効果的な進め方と、目指すべきエコシステムの確立

デジタル庁

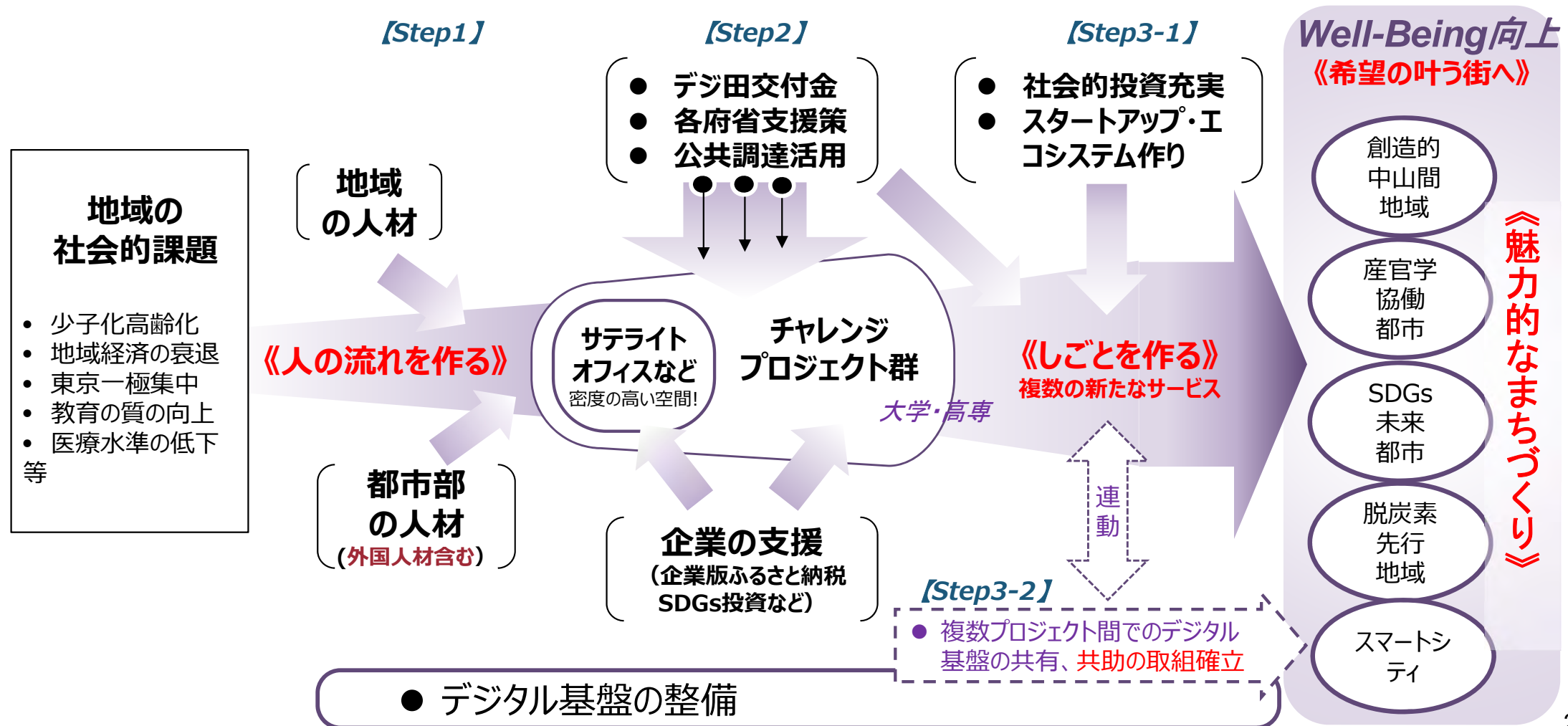
「山頂無き山登り」を、段階を追って解消する

- 我が国が、優れた遠隔医療、遠隔教育など様々なデジタル技術（＝「登山靴」）があるにもかかわらず、山頂に登り切れない、「山頂無き、山登り」状態から脱却するには、**先ずは、各エリアが、いずれかの取組から「登りはじめ」、様々な分野へとメニューを増やし、徐々に連携を深めて頂上を目指す**ことが必要。
- その際には、**次ページにあるような、段階を追った取組を意識することが有効。**



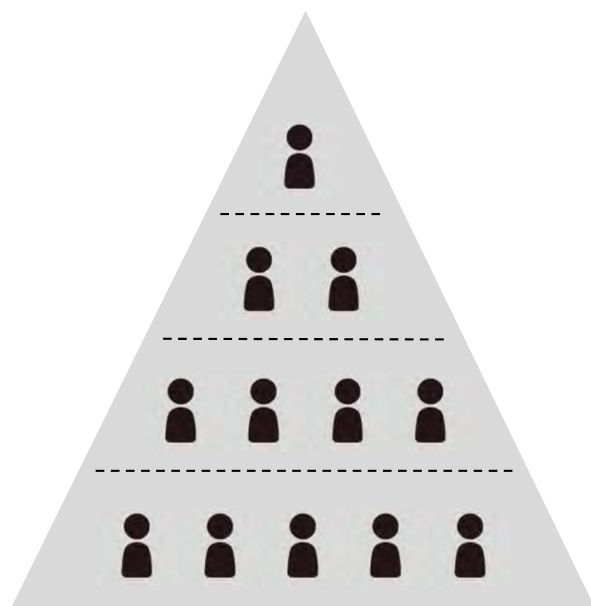
取組全体の見取り図

- 先ずは、人と産業を呼び込む政策を強化 (Step1) し、それらを密度の濃い空間に集めてデジタル技術を活かしたチャレンジプロジェクト群を組成 (Step2)。これらを事業化するためのスタートアップ支援を充実させる (Step3)。
- このプロセスを通じ、複数プロジェクトの間で、新たなサービス間の連携やデータ連携基盤などへの投資を支え合い、ともに効果的・戦略的にWell-Beingの向上に取り組む、共助のビジネスモデル〈協力関係〉を確立する。

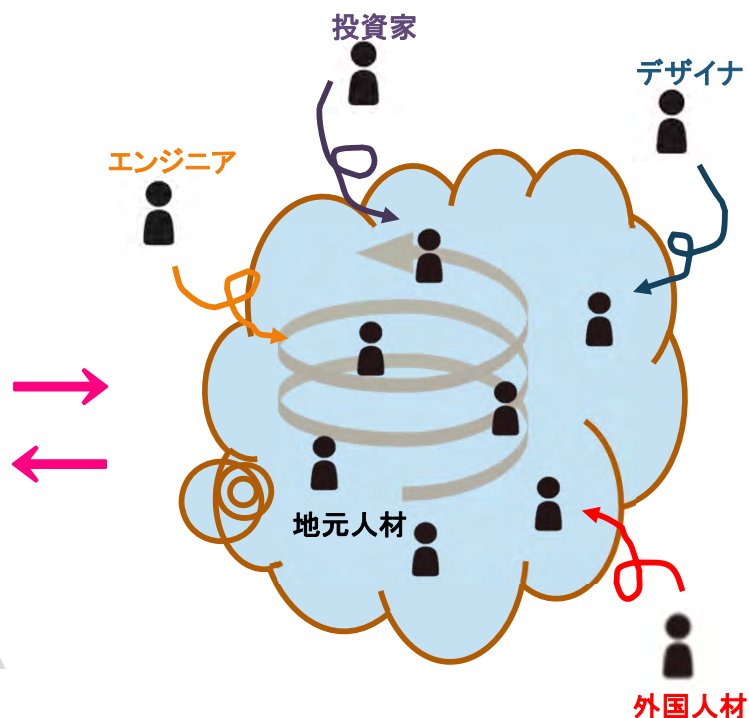


Step1：地域こそチャレンジの場へ <多様な人材を地域に呼び込む>

- 都会の暮らしや、大企業における働き方は、副業、二拠点居住、多様な教育や医療など多様性ある暮らしを希望したり、様々なビジネスにチャレンジをしたい創造的な人材にとって閉塞感のある空間になっている恐れあり。
- 思い切り自分の力試し・力磨きできるような、**自由で活力ある暮らしとビジネスの実践の場を、地域にこそ、実現できないか。**また、外国人材の活用にも積極的に挑戦していくべきではないか。



【従来型の都市部の暮らし】



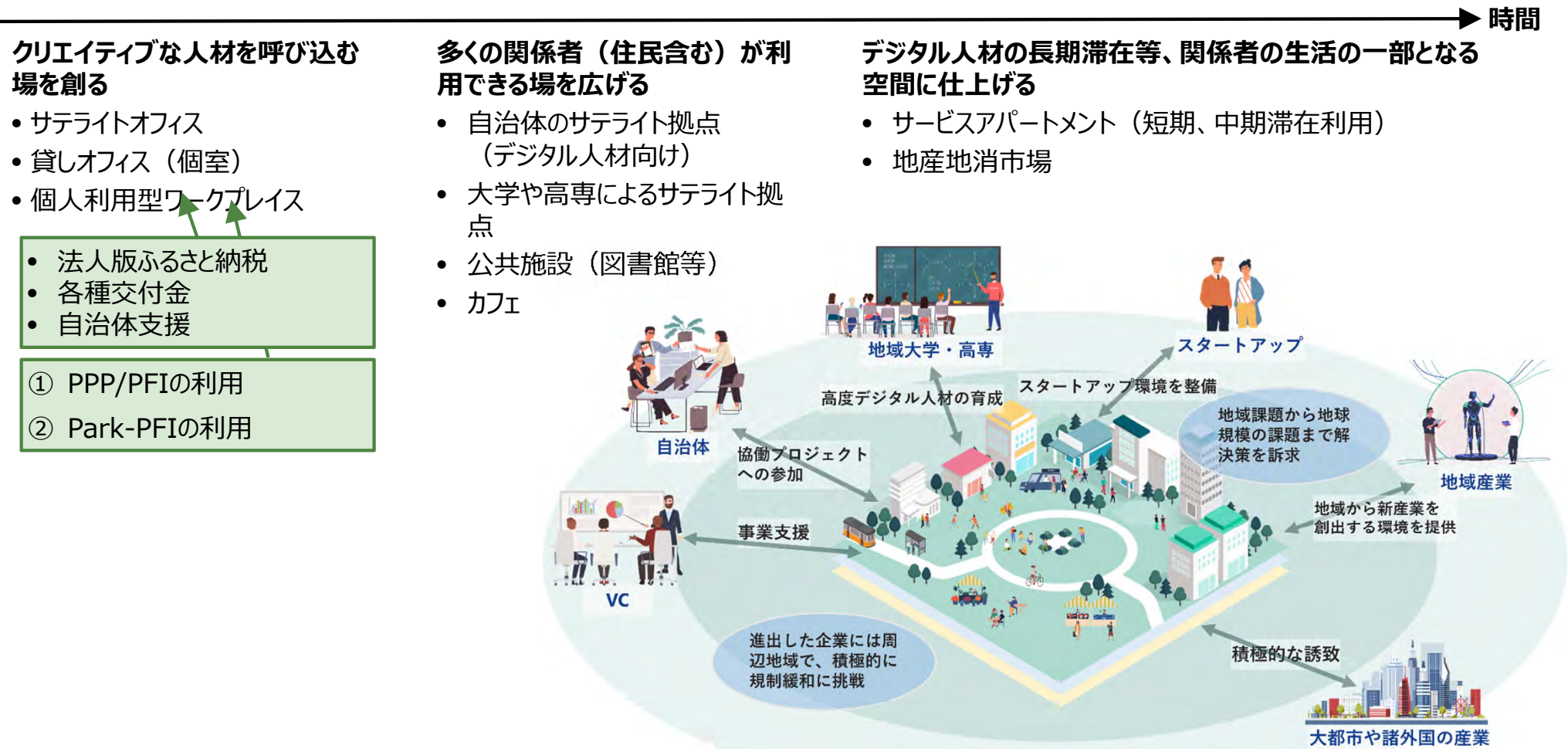
【自由で活力ある地域の暮らし】

【想定される施策例】

- 実証プロジェクト等を立ち上げ、都市部の人材と地元人材が協同作業を行う機会を積極的に作り出す
 - プロ人材事業、兼業・副業促進策などを駆使して、地元企業・プロジェクトに都市部の人材を呼び込む。
 - ワークेशनなどの機会を駆使して、都市部の企業の仕事を行う場を地域に作る。
 - 複業協働組合(海士町)の設置や、宿泊施設がセットになったオフィス環境など、地域で働き始めやすい環境を整える。
- など

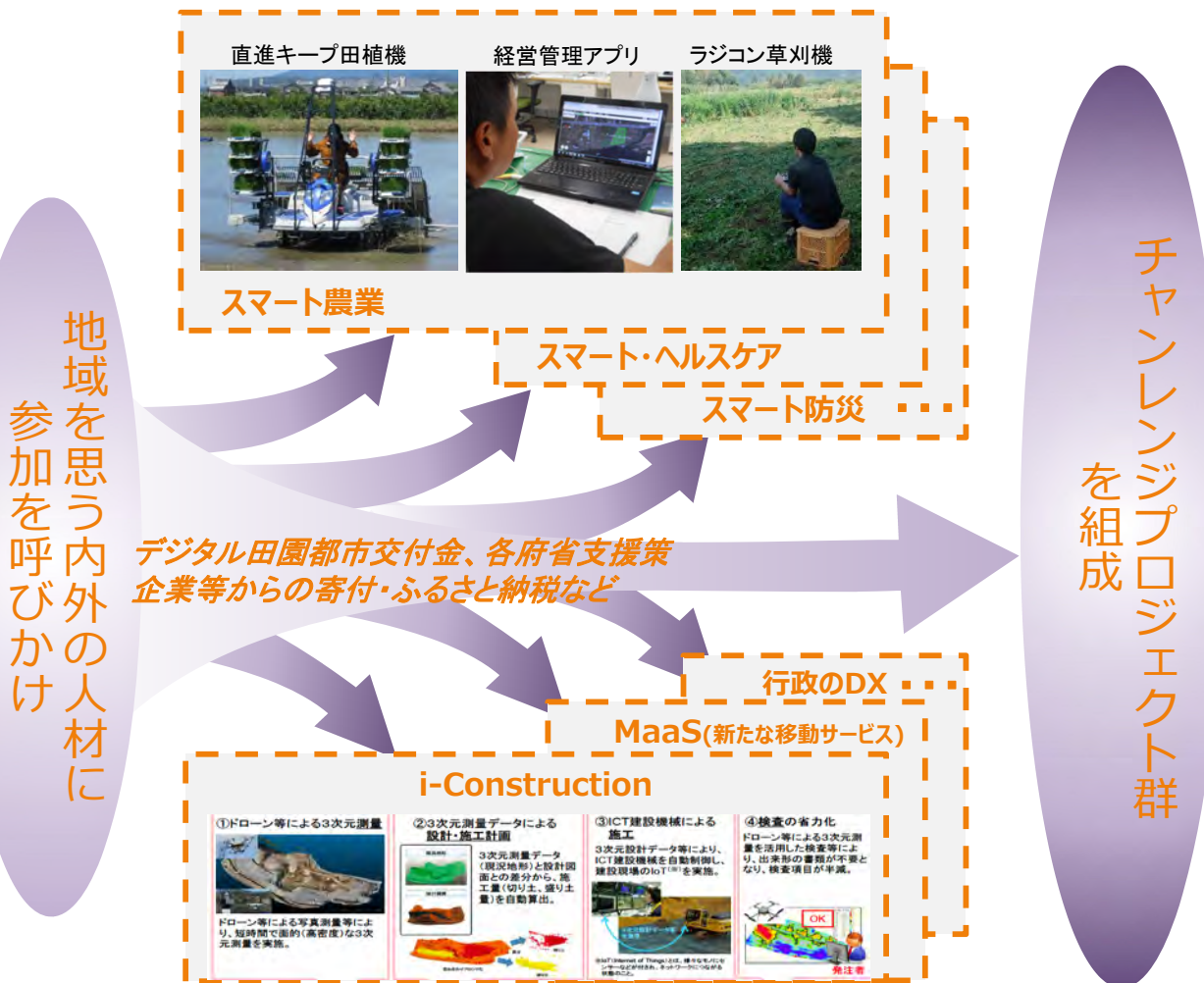
Step2 : サテライトオフィス等の整備 <密度と包摂性の高い空間づくり >

- 優れたサテライトオフィスは、インクルーシブスクエア（密度と包摂性の高い空間）であることが望ましい。
- 多様かつ創造的な人材を1か所に集め、複数のスタートアップを集結させつつ、経済的、人的、制度的支援によりスタートアップを育成する場を各エリアに育てる。またそのために、多くの関係者が集う場とする。



Step2 各種支援策をフル活用し、チャレンジプロジェクト群を組成

- 人の流れの充実とともに、**チャレンジプロジェクト群**を作り、「**新たなデジタル地場産業**」の**プロトタイプ**を生み出す。プロジェクトの選択の仕方・進め方については、次ページ以下のとおり、様々な形あり。
- チャレンジプロジェクト群の組成に当たっては、デジ田交付金や各府省施策などの国からの支援に加え、民間企業のSDGs投資、ふるさと納税、市民からのクラウドファンディングなど、**考えられる手段は何でも貪欲に活用**。



スマート農業

スマート・ヘルスケア

スマート防災

行政のDX

MaaS(新たな移動サービス)

i-Construction

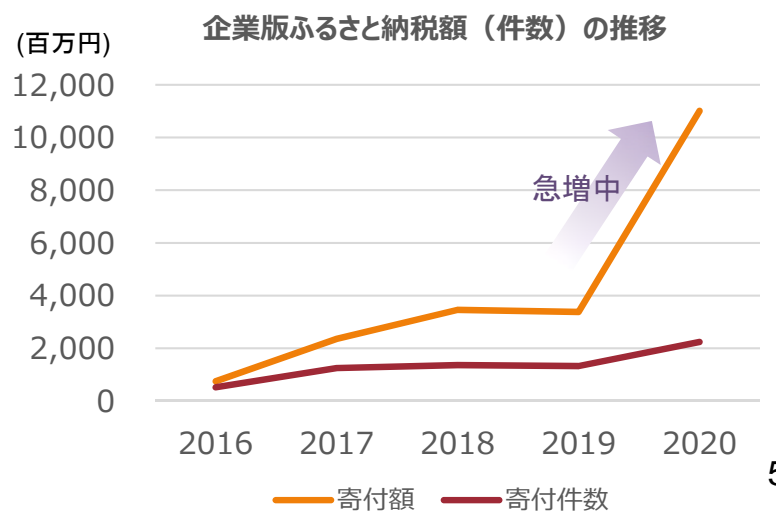
①ドローン等による3次元測量
ドローン等による写真測量等により、短時間で面的(高密度)な3次元測量を実施。

②3次元測量データによる設計・施工計画
3次元測量データ(現状地形)と設計図書との差分から、施工量(切り土、盛り土量)を自動算出。

③ICT建設機械による施工
3次元設計データ等により、ICT建設機械を自動制御し、建設現場のIoTTMを実施。

④検査の省力化
ドローン等による3次元測量を活用した検査等により、出発形の管理が不要となり、検査項目が半減。

- 【想定される施策例】
- デジタル田園都市交付金の充実・活用
 - 各府省のスマートシティ関連施策やデジタル化関連施策の充実・活用
 - 企業版ふるさと納税の運用緩和と活用
 - 企業からのSDGs投資の活用
 - クラウドファンディングの積極的活用
 - アウトカムファンドなど官民協力型のソーシャルファンドの活用
- など



Step2 : 最終的には暮らしを巡る全てのサービスをデジタル化

- 暮らしの現実を見ると、多くの人が、教育、医療、介護、仕事など、様々な局面で、それぞれに多様な課題を持つ。
- デジタル田園都市では、先ずは取組かかりやすいところから取組を始めれば良いが、特定分野のサービスによる課題の断片的解決に満足するのではなく、最終的には、個人が持つ多様なニーズ・価値観の充足をめざし、暮らしを巡る全ての局面で、デジタルを活用した新たな生活サービスの実現を目指すことが必要。

